

平成30年度

発表日：平成30年5月30日

農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

岩手県病害虫防除所

1 細菌病類

- (1) 巡回調査では、発生施設率、発生箱率ともにほぼ平年並であった（表1）。
 (2) 腐敗症状苗8サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が5点、苗立枯細菌病が3点であった。

2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率、発生箱率ともにほぼ平年並であった（表1）。一方、山間部の施設では、発生程度が高い事例も確認された。
 (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）によるものであった。

3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認されたが、発生箱率は平年より低かった（表1）。

表1 育苗施設の病害発生状況

単位:巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 (3)	1 (2)	0 (0)	2 (3)	
県中部	16 (15)	5 (2)	3 (4)	10 (13)	
県南部	12 (12)	1 (3)	8 (3)	12 (12)	
遠野・沿岸部	4 (4)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	
合計	35 (34)	8 (5)	12 (8)	28 (32)	
発生施設率 (%)	H30	—	22.9 (23.5)	34.3 (23.5)	80.0 (94.1)
	平年	—	19.8	36.9	83.0
発生箱率 (%)	H30	—	0.21(0.24)	0.26(0.19)	0.35(1.27)
	平年	—	0.42	0.47	0.86

※()は平成29年の調査結果

※平年値:H20-H29 10ヶ年

4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生圃場率は平年並で、食害が見られた圃場はなかった（図1）。

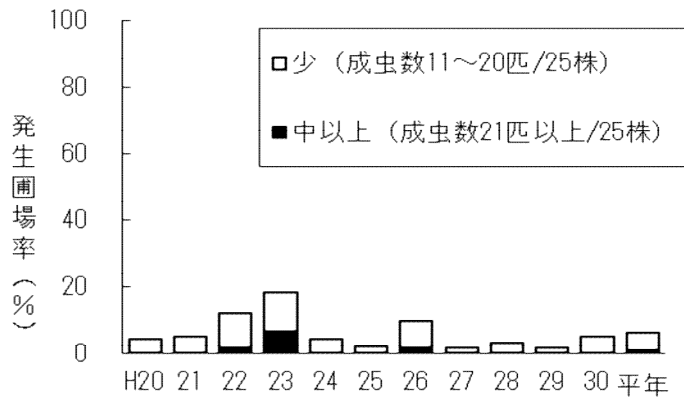


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の侵入及び産卵が認められた圃場はなかった。

6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の調査では、産卵のみられた圃場数は平年並であった（図2）。

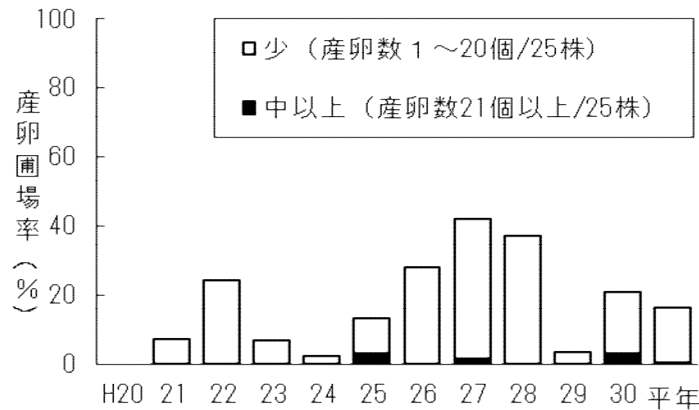


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移 (5月下旬)

7 斑点米カメムシ類

- (1) 農研センター内牧草地（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、越冬世代幼虫が5月第3半旬に確認された（表2）。

表2 牧草地における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジ	アカヒゲ	
5/7	0	0	0
5/11	0	0	2
5/16	0	0	31
5/21	0	2	7
5/25	0	2	5

農作物病害虫発生現況情報（5月） 麦 編

1 うどんこ病

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は見られなかった (図1)。

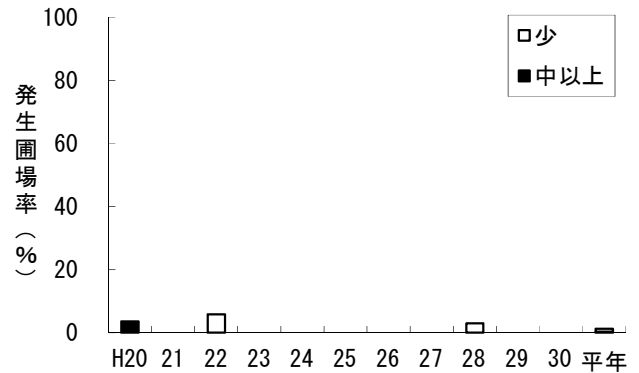


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

2 さび病類 (赤さび病)

(1) 5月中旬の巡回調査では、発生は見られなかった (図2)。

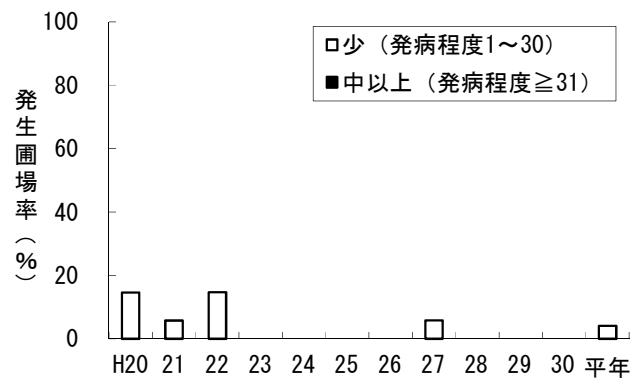


図2 さび病類 (赤さび病) の発生圃場率の年次推移 (5月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

1 モニリア病

(1) 5月の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

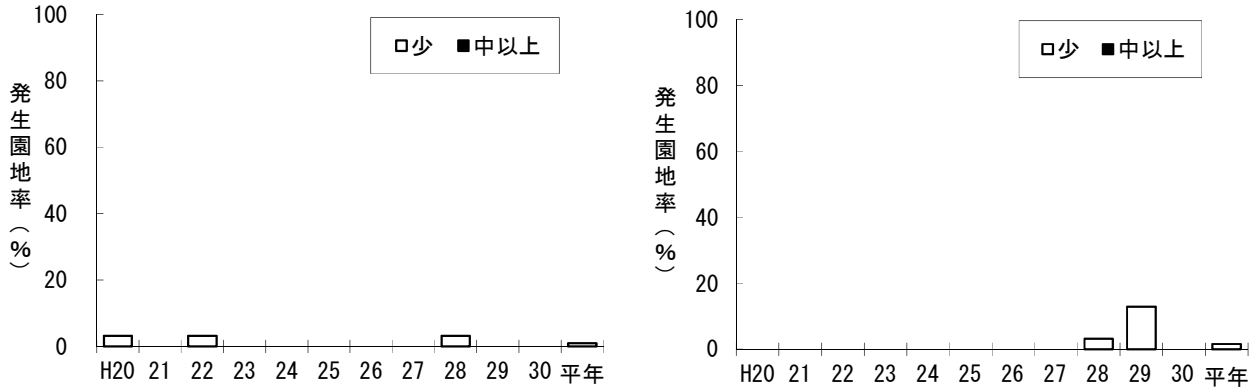


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（左図：5月前半、右図：5月後半）

2 腐らん病

(1) 5月前半の巡回調査では、発生園地率は平年よりもやや高かったが、5月後半は平年並であった（図2）。

(2) 地域別の発生園地率は、5月前半では県中部で発生程度中以上の園地率がやや高かった（図3）。

(3) 部位別病斑数は、枝腐らんの発生が多かった（図4）。

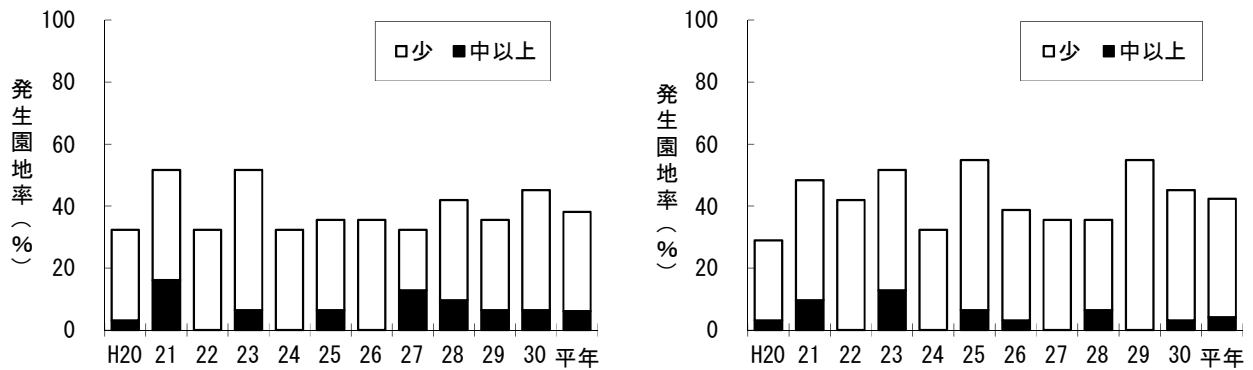


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（左：5月前半、右：5月後半）

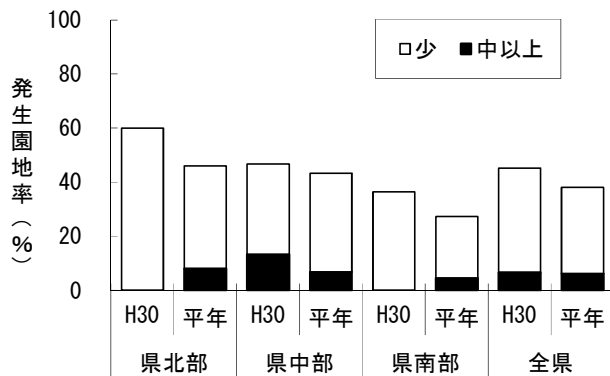


図3 腐らん病の地域別発生園地率（5月前半）

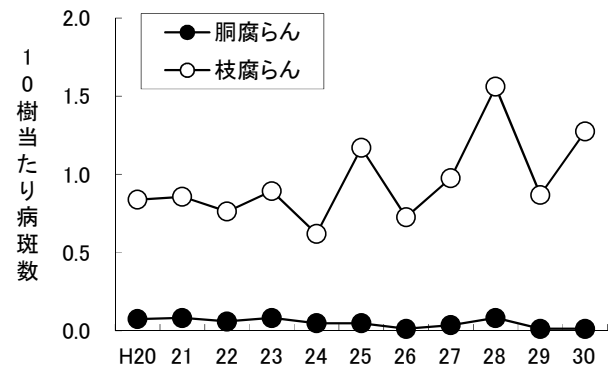


図4 腐らん病の部位別病斑数の年次推移（5月の最大値）

3 斑点落葉病

(1) 5月後半の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった(図5)。

(2) 基準圃場(北上市・スターキングデリシャス)では、5月第6半旬にわずかに発生が確認された(表1)。

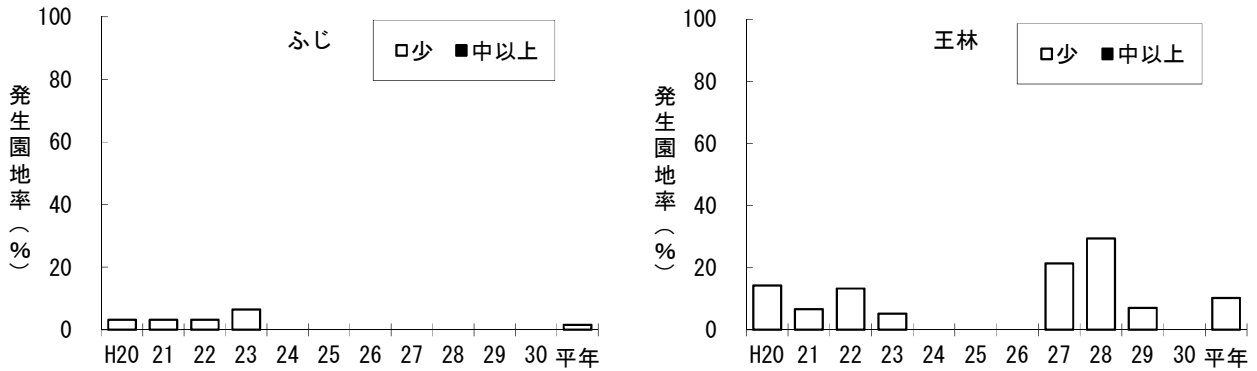


図5 斑点落葉病の発生園地率の年次推移(5月後半)

表1 斑点落葉病の基準圃場(北上市・スターキングデリシャス)での初発確認時期

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
初発(月/半旬)	6/1	5/6	6/4	6/3	6/3	5/6	5/6	5/6

4 その他病害

(1) 黒星病は、5月後半の巡回調査では発生が確認されなかった(図6)。

(2) うどんこ病は、5月後半の巡回調査では発生が確認されなかった(図7)。

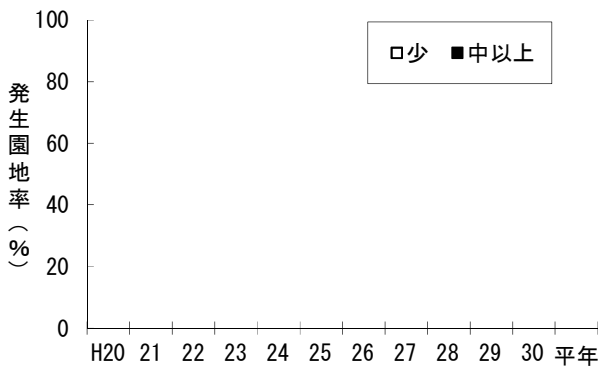


図6 黒星病の発生園地率の年次推移(5月後半)

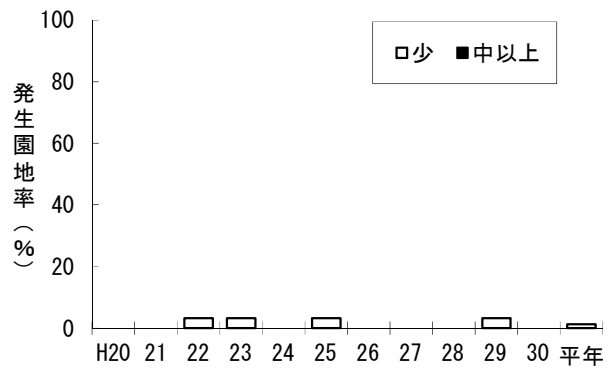


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移(5月後半)

5 リンゴハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半、後半ともに平年並であった。発生程度中以上の園地は、5月前半には見られなかったが、5月後半では平年並となった(図8、9)。
- (2) 地域別では、県南部で平年より発生園地率が高かった。(図10)。

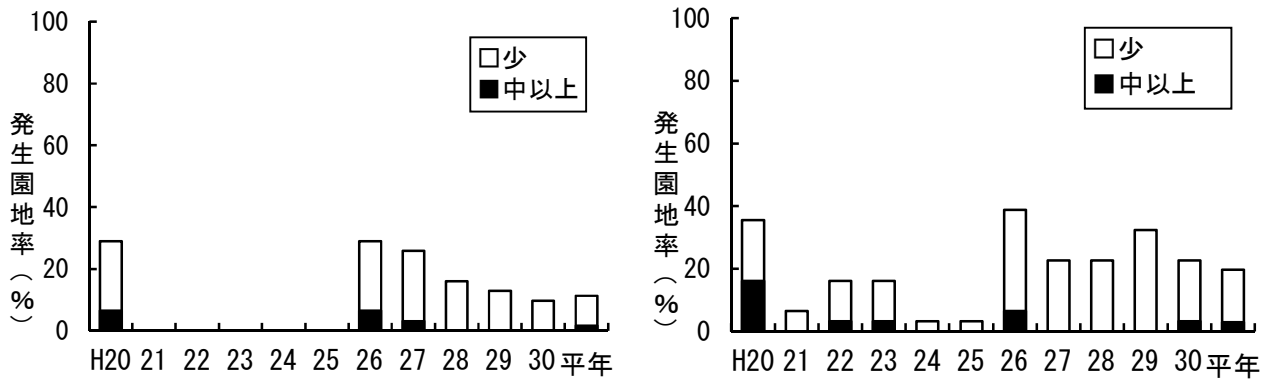


図8 リンゴハダニの発生園地率の年次推移(左：5月前半、右：5月後半)

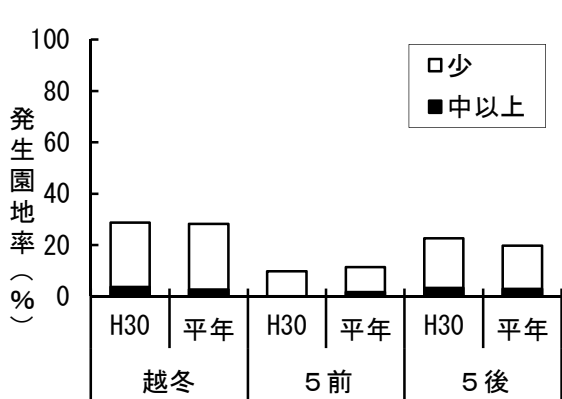


図9 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

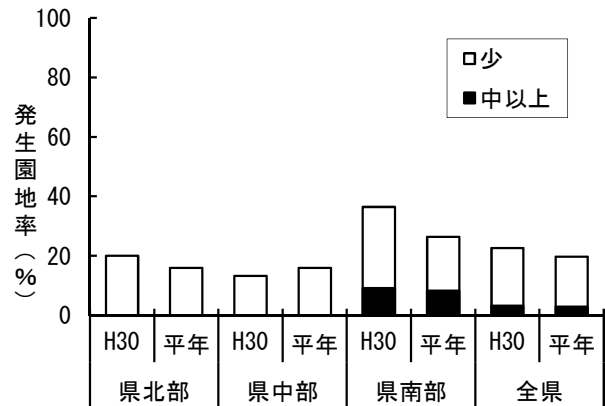


図10 リンゴハダニの地域別発生状況(5月後半)

6 ナミハダニ

- (1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半、後半ともに平年より低かった。発生程度中以上の園地は、5月前半には見られず、5月後半では平年より少なかった(図11、12)。

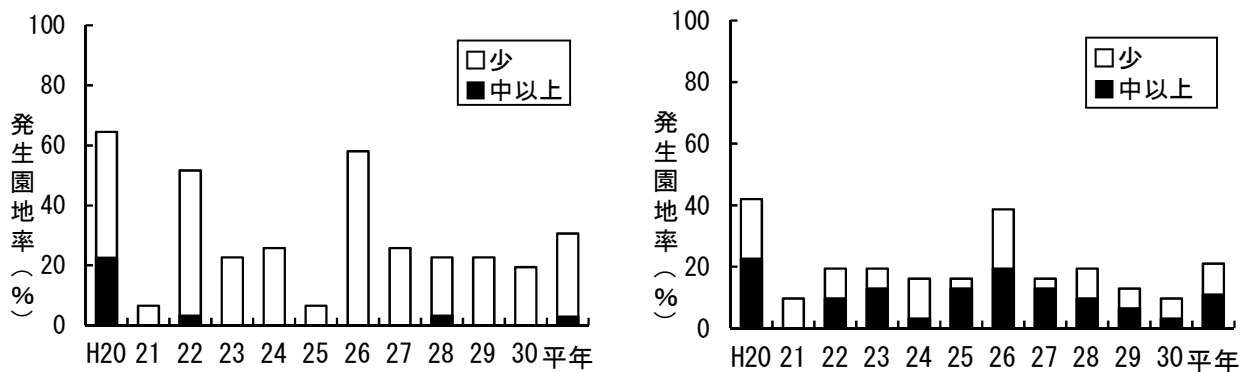


図11 ナミハダニの発生園地率の年次別推移(左：5月前半、右：5月後半)

(2) 地域別では、県北部で発生園地率が平年より高く、5月後半は発生程度中以上の園地率も平年より高かった。県中、県南部での発生園地率は平年より低く、5月後半は下草では確認できたものの樹上部での発生は確認できなかった(図13)。

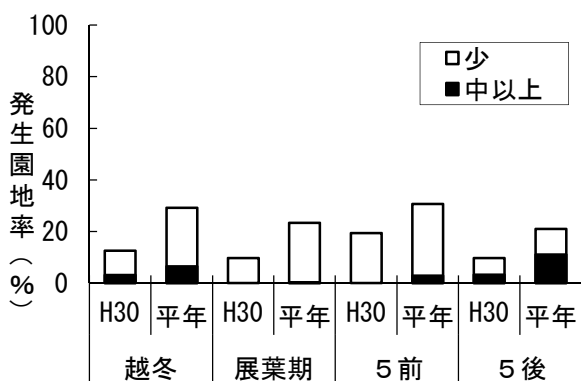


図12 ナミハダニの時期別発生状況の推移

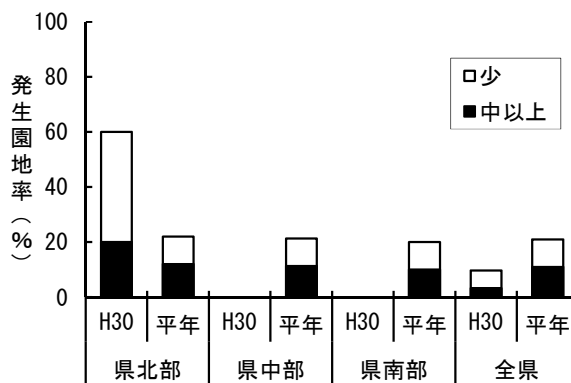


図13 ナミハダニの地域別発生状況(5月後半)

7 ハマキムシ類

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半には平年よりやや低く、5月後半では平年並であった(図14)。

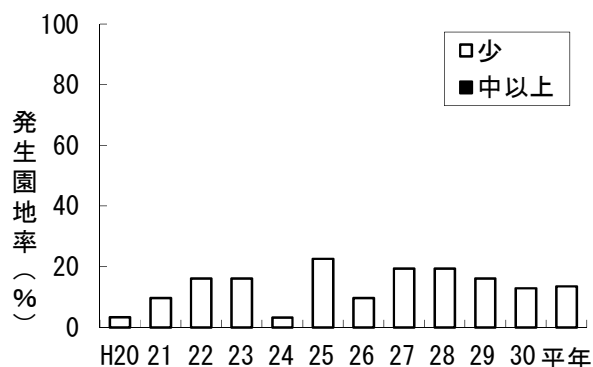
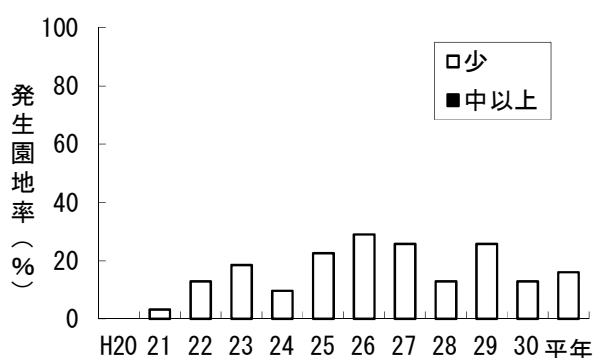


図14 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移(左:5月前半、右:5月後半)

8 ギンモンハモグリガ

(1) 5月後半の巡回調査での第1世代幼虫の発生園地率は、平年より低かった(図15)。

9 アブラムシ類

(1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は、平年並であった(図16)。

(2) 発生が見られた種は、リンゴクビレアブラムシであった。

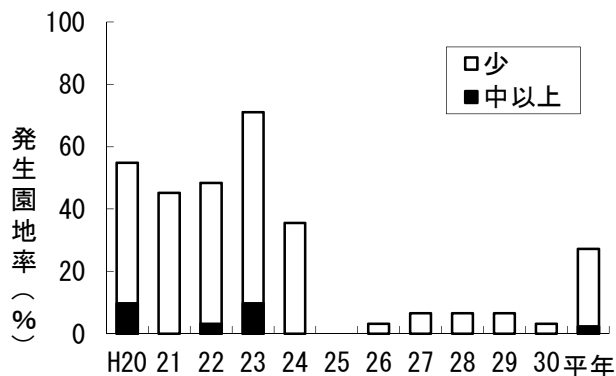


図15 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移(5月後半)

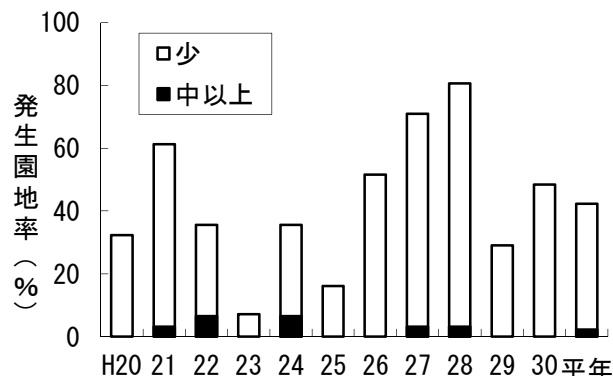


図16 アブラムシ類の発生園地率の年次推移(5月前半)

10 ヤナギリチョッキリ

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図17)。

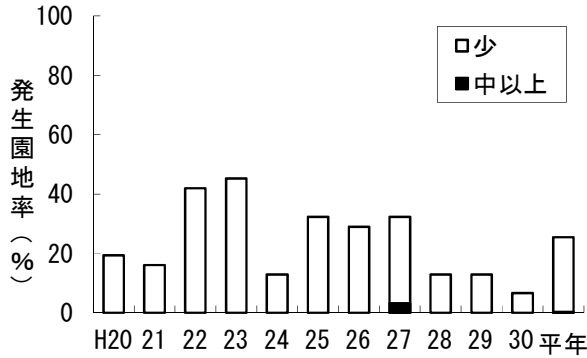


図17 ヤナギリチョッキリの発生園地率の年次推移(5月後半)

11 モモシンクイガ

(1) 無防除圃場(北上市成田)におけるフェロモントラップには、おおむね平年並の5月第5半旬に誘殺が確認された(図省略)。

12 キンモンホソガ

(1) フェロモントラップにおける越冬世代の誘殺は、無防除圃場(北上市成田)では4月第6半旬にピークが認められ(図18)、現地圃場(盛岡市東安庭)では5月第1半旬にピークが認められた(図省略)。

(2) 5月後半の巡回調査では、県中部の1園地で被害葉が確認された。

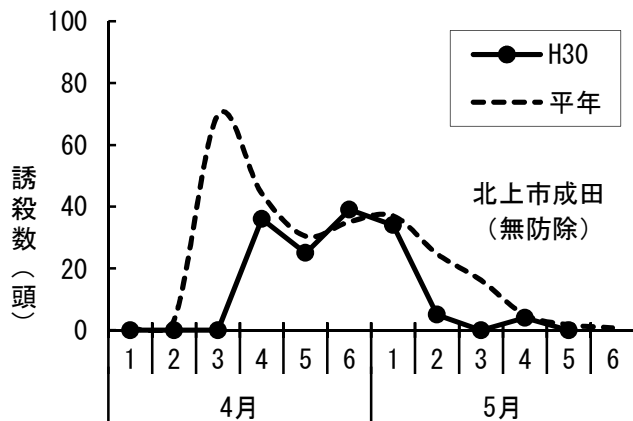


図18 無防除圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況(北上市成田)

13 果樹カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）及び現地3園地（盛岡市川目、北上市更木、一関市大東町）の集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、いずれも平年並であった（図18）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、盛岡市川目で5月第3半旬、第4半旬にそれぞれ1頭ずつ確認されているが、北上市更木では5月第5半旬現在、確認されていない（図省略）。

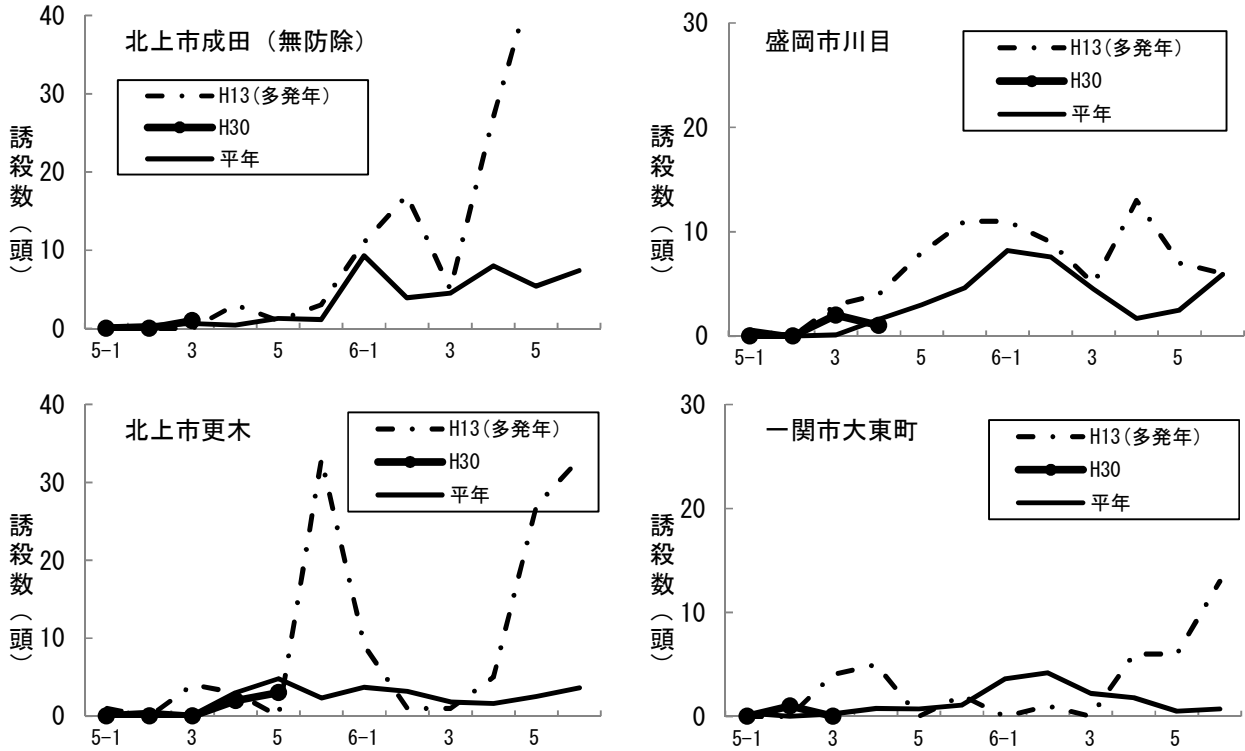


図18 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

農作物病害虫発生現況情報（5月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市）におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第4半旬に急増した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、例年より早い4月第1半旬から認められた（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は5月第1半旬から認められ、第4半旬から急増した（図3）。
- (4) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年より高かった（図4）。

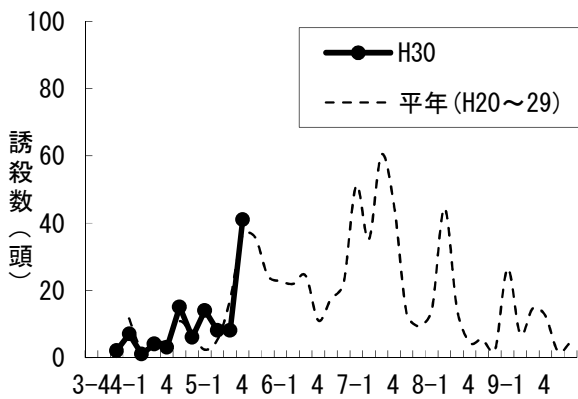


図1 基準圃場（北上市）におけるフェロモントラップの誘殺状況

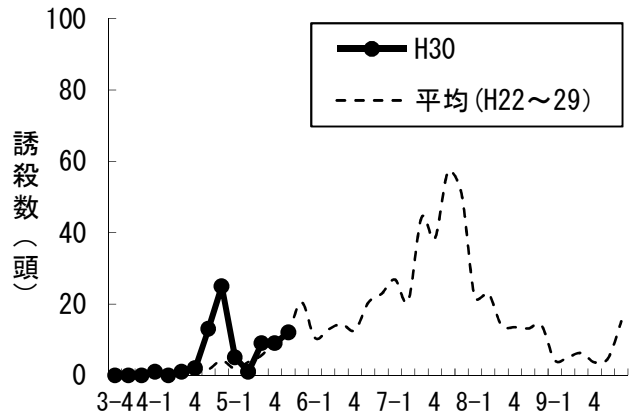


図2 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

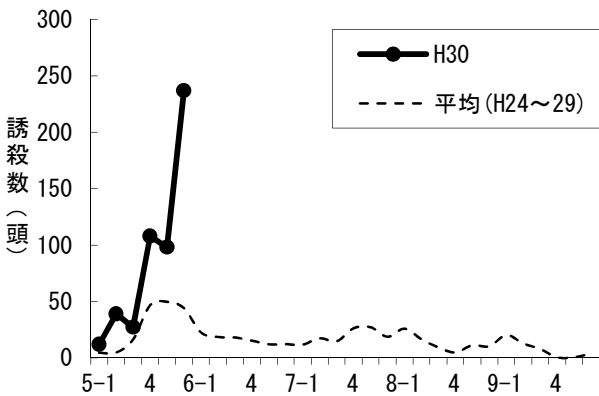


図3 岩手町におけるフェロモントラップの誘殺状況

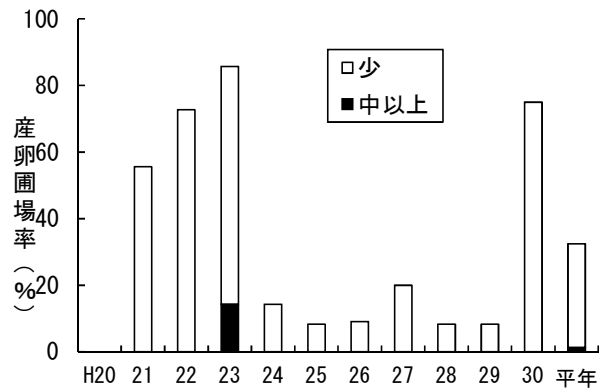


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移 (5月中旬)

2 モンシロチョウ

(1) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年よりやや高かった(図5)。

3 ヨトウガ

(1) 基準圃場(北上市)におけるフェロモントラップへの誘殺は、5月第4半旬から認められた(図6)。
 (2) 5月の巡回調査では、産卵は例年通り確認されなかった。

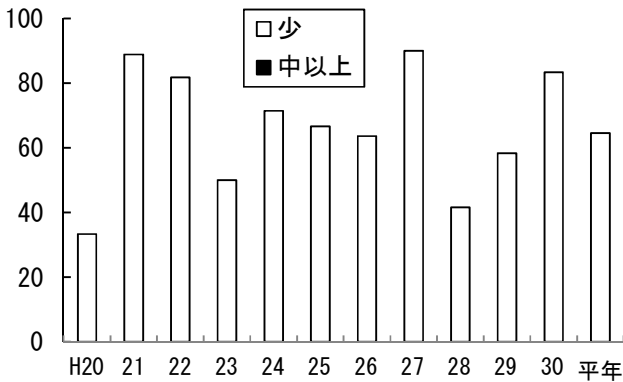


図5 モンシロチョウの産卵圃場率の年次推移(5月中旬)

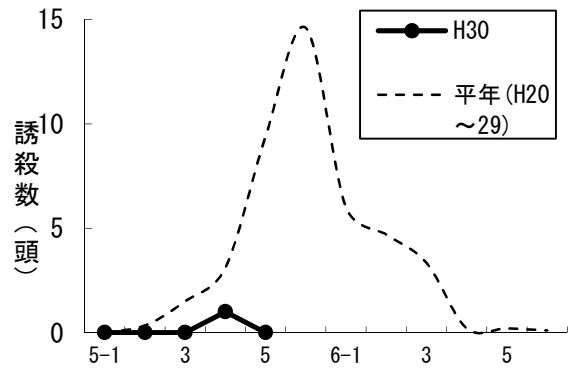


図6 基準圃場(北上市)におけるヨトウガのフェロモントラップの誘殺状況

4 タマナギンウワバ

(1) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は4月第5半旬から継続して認められている(図7)。
 (2) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年より高かった(図8)。

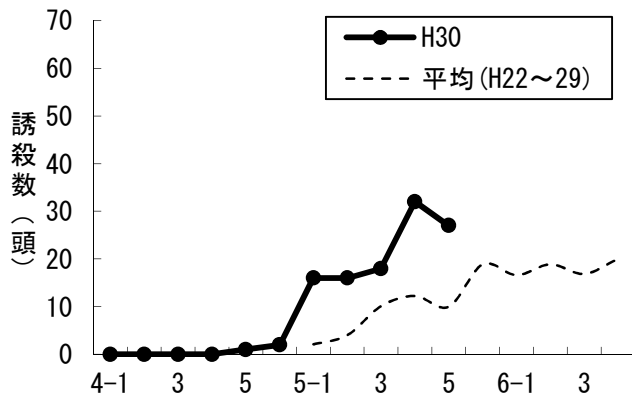


図7 軽米町におけるフェロモントラップの誘殺状況

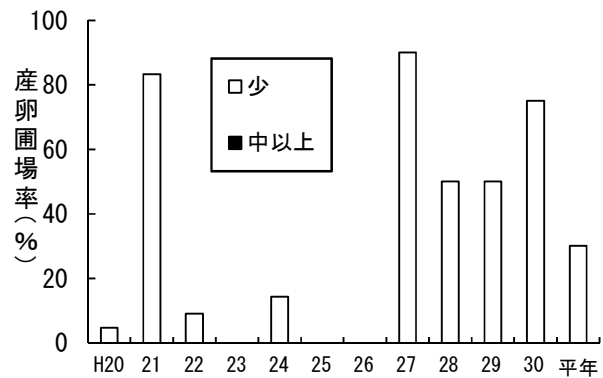


図8 タマナギンウワバの産卵圃場率の年次推移(5月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（5月） ねぎ編

1 さび病

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

2 ベと病

(1) 5月下旬の巡回調査では、例年どおり発生が確認されなかった。

3 ネギコガ

(1) 5月下旬の巡回調査では、一部圃場で発生が確認された（図2）。

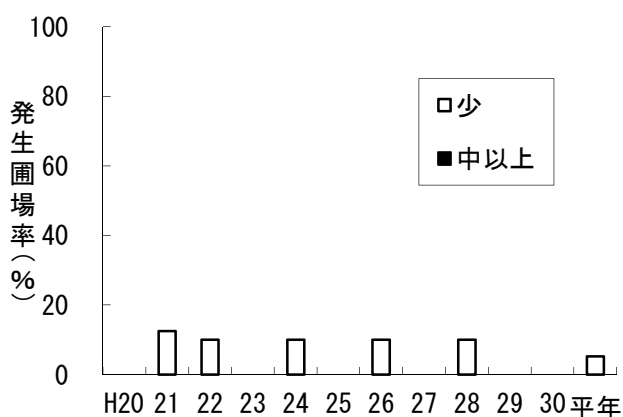


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

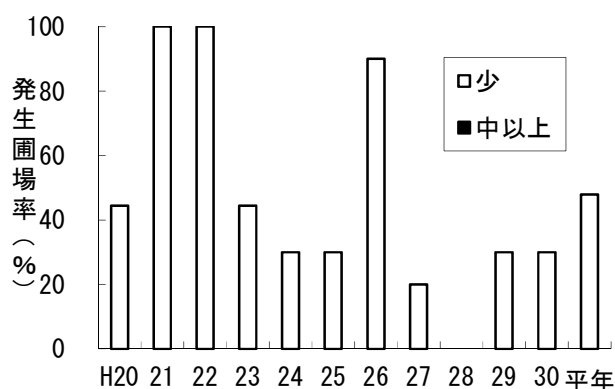


図2 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (5月下旬・被害葉率)

4 ネギハモグリバエ

(1) 5月下旬の巡回調査では、舐食痕が確認されたが、幼虫による被害は見られなかった（図3）。

5 ネギアザミウマ

(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平均より高かった（図4）。

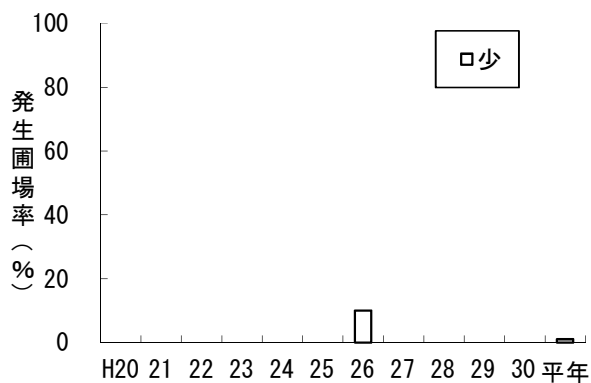


図3 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (5月下旬)

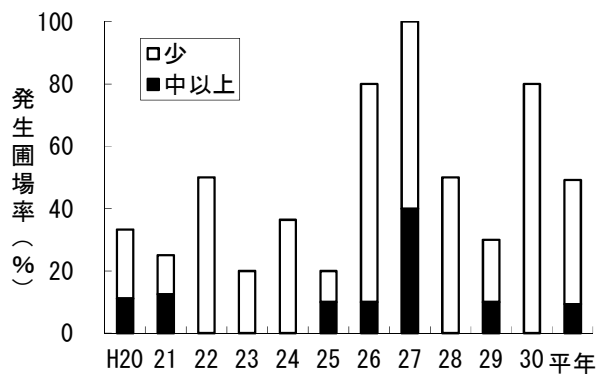


図4 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (5月下旬・被害度)

農作物病害虫発生現況情報（5月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(図1)。

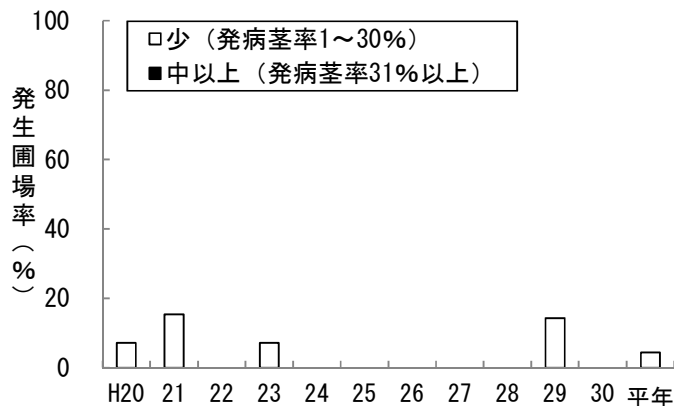


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移 (5月後半)

2 ハダニ類

(1) 5月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(図2)。

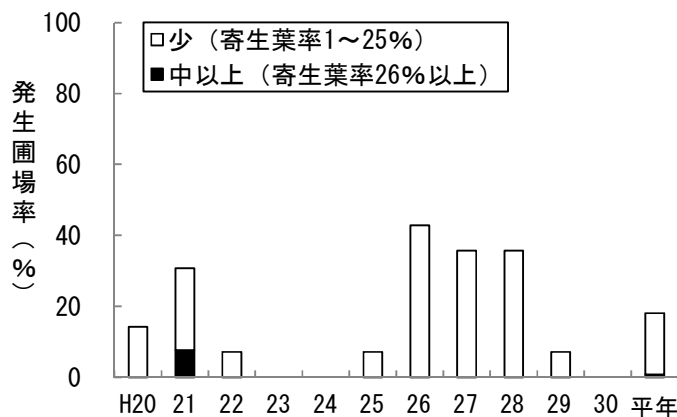


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (5月後半)

3 リンドウホソハマキ

(1) 基準圃場(北上市)では、5月第4半旬に越冬世代の羽化が確認され(表1)、第6半旬に産卵が確認された。

表1 リンドウホソハマキ越冬世代累積羽化率(北上市 農研センター)

年度	調査時期(月・半旬)							(%)
	4・6	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	5・6	
H20	0.0	2.6	11.2	19.1	30.6	43.4	60.8	
H21	0.0	0.0	0.0	10.8	16.3	24.3	30.7	
H22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	16.2	27.6	
H23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.4	
H24	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	7.3	
H25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	
H26	0.0	0.0	0.0	0.4	0.8	3.1	3.9	
H27	0.0	0.0	0.4	1.9	2.7	4.3	6.5	
H28	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2	3.5	7.2	
H29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.8	
H30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	2.5		